

外国貿易の振興

昭和恐慌期以降、名古屋市は外国貿易の振興を図るべく、積極的な取組みを開始した。とくに名古屋地方の産業規模に比べて名古屋港の貿易額が少ないことが指摘され、名古屋港からの直輸出の拡大が課題であった。

名古屋市の主な施策は以下の通り。

■ 海外実務員制度

商工業に従事する者を海外に派遣して販路の開拓拡張、又は工業上の技術を習得させる目的で昭和4年～6年に実施。シンガポール・スラバヤ・メダン・広東・上海・カルカットの6都市に各1名を派遣した。

■ 海外見本市

市が県・商工会議所と提携して海外で見本市を開催。南洋(スラバヤ・スマラン・パタビヤ)で巡回見本市を開催。また、北米・朝鮮・北支の名古屋見本市協会に補助金を交付するなど援助。その後、オーストラリア・アフリカ・中南米にまで拡大した。



当時の名古屋港

出典：『名古屋十六景』、愛知県図書館蔵



県・市・商工会議所の共催で実施された上海見本市

出典：『名古屋商業会議所月報』No.316、昭和10年12月

■ 名古屋市立商品紹介所

中華民国・満州国に設置され、無料で取引の紹介・斡旋を実施した。

昭和7年、奉天に名古屋商品紹介所を設置。同9年、天津名古屋商品紹介所、同12年、上海名古屋商品紹介所の開設と拡大された。

■ 貿易斡旋所

昭和11年9月、市内中区に開所。外国貿易関係業者に対し無料でサービスを提供した。

海外商取引の斡旋紹介／貿易実務の支援・指導／商品見本の海外送付に要する費用補助や優良品証明の実施／海外市場における商品見本カタログ等の蒐集展示／貿易上参考となる座談会講演会などを開催。



奉天の名古屋商品紹介所

出典：『大名古屋』、昭和12年

このほか、愛知県、名古屋商工会議所も互いに連繋しつつ貿易振興策を展開した。

昭和恐慌期(昭和5年～7年)に一時的に落ち込んだ名古屋港の外国貿易額は、昭和8年に回復して以後は拡大した。輸出入とも、大正10年・昭和12年の間で7～8倍に増加している。相手国はアジアが最も大きく、北米への依存度は低下した。また、とくに輸入では南洋の依存度が増加した。